



「臥竜鳳雛」



*タイトルの意味は？調べてみよう

2022・1・11 第54号

学年主任 森本 聡一郎

今年のテーマ：3年間の「自分磨きの旅」を感動に満ちたものにしよう
最上級生としての自覚ある行動と進路実現への挑戦

今月のテーマ：まだ何も終わっていない。74回生3年間の「総決算」を黒字にするべく、浮かれることなく最後まで努力を心掛けよう。学校や後輩に何が残せるのか一人ひとりが考えて行動せよ！

1. 「有終の美を飾るには…」

年も改まり、いよいよ学舎（まなびや）を巣立ちゆく春も近い。厳密に言えば、キミ達が高校のルールの管理下にあるのは3月31日までなのでたとえ卒業証書を手にしたところで所詮は暫定のものに過ぎない。

それ以前の話として、学年末考査を乗り越え、補習や補充を完了して初めてその権利が発生するのである。その上、高校生を卒業できればOKというものでもない。進路決定するという大変な作業が残っているのだ。そのような我々には、美しく、格好よく卒業するという余裕などない。むしろ、最後の最後まで高校生活を完遂することを考えていなければ大きな後悔をしかねない。「終わり良ければ全て良し」ではいけないのだが、最後のラインまでは全員できっちりと走り切りたいものである。学年一丸となって、素晴らしい年のスタートにしよう。

1月の要登校日が9日。2月が1日で3月も1日。僅か11日間の過ごし方として次のことをお願いしておく。

- 1)遅刻、欠席をなしにしよう
- 2)追認考査を無用にしよう
- 3)感謝とは何か。成長とは何かを示そう

2. 「今年の私の漢字 一文字」 学年団の先生方より年頭のご挨拶

学年団の先生方に「今年の抱負」、或いは「生徒諸君へのエール」を漢字一文字で表していただきました。ところで君たちの漢字一文字は何でしょうか。その漢字が現実のものになるかどうかは別にして、言葉にすることが大事なのです。行動はその先にあるのですから。

光

Ⅰ組 沖守春樹 先生

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしく願いいたします。さて、現在皆さんは人生において、ある種暗闇の中にいるような段階を歩んでいるのではないのでしょうか。多くの方は卒業後の進路は未定。いまだ鳳鳴生ではありますが卒業は間近、鳳鳴生という肩書はなくなります。慣れた日々が終焉に近づき、不明瞭な未来に心も晴れないだろうと感じます。私も同じく、74回生の進路は勿論、2022



年は仕事と家庭がどうなるのか不安も少しあります。ですが、不安を感じるのは当然の現象です。「光」を信じて共に歩みましょう！

本

2組 石元真理 先生

私の今年の漢字は【本】です。幾つか理由があります。一つには、今年はたくさん本を読みたいと考えます。本は心の栄養と言われています。しかし、昨年は忙しいことを理由に、本を買っても手に取る機会があまりありませんでした。読みたい本はたくさんあるので、今年は時間を作ってどんどん読んでいこうと考えています。また、本格的に自分の趣味を見つけたいと考えます。趣味の一つであった旅行がコロナ禍で難しくなり、冬場はスキーにも行けていません。インドアでできる趣味も見つけ、余暇を充実させたいと考えます。

進

3組 山崎翔太 先生

今年の漢字は【進】です。

74 回生の皆さんの中には進路が決定した人もいれば、これから進路を決めるために受験に臨む人もいるでしょう。進路が決定することは、言い換えるとあなたが目指す目標や夢に向かって進むことです。今回の進路決定は、決してゴールというわけではなく、次の新しいスタートになります。次の進路先でも常に進み続けてください。

今年は私自身も現状に満足せず、自分自身を高めるために進み続けていきたいと思います。まずは、学生の時に読みきれなかった本にもう一度チャレンジしてみようと思います。皆さんもこの一年が飛躍の年になるように自分を高めるための目標を立ててみてください。

続

4組 稲谷英俊 先生

新年明けましておめでとうございます。

「継続は力なり。」私が最近、部活動で多く口にする言葉です。軟式野球部では冬練に入り、厳しいメニューが続きます。しかし、1日だけしんどいことをしてもあまり意味がありません。小さなことでも日々コツコツと続けることで、大きな力となるのです。勉強も同じですよ。

高校生活も、あと数か月すれば終わります。ですが、皆さんの人生はまだまだ続きます。何歳になっても向学心を持ち、学び続ける人であってください。きっと、皆さんの人生を豊かにしてくれると思います。そして、鳳鳴高校で出会った仲間との関係もまた、長く続いていくものだと思います。



機

ALT サム 先生

Happy new year! I hope you all had a productive yet relaxing holiday. My *kanji* for 2022 can be translated as 'opportunity.' Opportunity is a word that has many meanings to me this year. First of all, I am very grateful for the opportunity of having been your ALT for the full three years of your high school life. I want to say thank you for being such amazing students and making me feel excited to teach you each time. You are definitely my favorite year group I have ever taught in Homei

and I'll never forget this opportunity. Secondly, 'opportunity' links to both my future and all of your futures. Having decided to leave in the summer of 2022, I am looking forward to the many opportunities available to me back in the UK. I will be working hard to achieve my dream of becoming a lawyer. Similarly, I know you will all be working hard to achieve your dreams. Please remember one thing: the opportunities available to all of us are endless!

旅

主任 森本聡一郎 先生



何の文字にしようか迷ったのですが、とっさに出てきた言葉がこれでした。皆さんの旅立ちが近づいています。「あと何日」という言葉を聞く度に、もうそんな時期になっているのだと痛感しました。旅立った先にあるものは、夢や希望、新たな出会いなど、今までの生活範囲も確実に広がります。が、周囲に流されず、地に足をつけて頑張ってください。

これから受験を迎える諸君へ

焦らずに悠々と臨みなさい。鳳鳴生はここから伸びますから…。最後まで粘り勝ちできるように諦めないこと。必ず一生の財産になります。最後に、この文字がとっさに出たのは、今年こそは旅行をしたい」という私の願望です。毎年言っている気がしますが…。

3. 「1月の行事予定」

- 11日(火) 大掃除・始業式・HR
- 12日(水) ⑥大学共通テスト事前指導(受験者対象)
- 13日(木) 通常授業(7時間)
- 14日(金) 午前中授業
- 15日(土) 大学共通テスト 1日目
- 16日(日) // 2日目
- 17日(月) ①②自己採点 未受験者は①「洋服着こなし講座」
③④授業 午前中授業
- 18日(火) 卒業考査(①日世B/数学 ②物理・生物)
- 19日(水) 卒業考査(①国語 ②化学)
- 20日(木) 卒業考査(①英語) ②学年集会
- 21日(金) ①考査返却 ②HR ③床磨き
- 24日(月) 自宅学習開始
国公立2次補習(学習室開放)



名言

教育とは 学校で習ったことをすべて忘れたあとに残っているものである。

1879-1955

アインシュタイン（米国の理論物理学者）

人生ここまでやってきて、今更のように、「学校で何を習った？」と訊かれると、意外なほどに「…」である。そのように考えてみれば、20世紀を代表する大博士が言うように、学校外で得た教訓の方が印象強いような気がする。

しかし、学校と言うものは訓練された内容があまりに当然すぎるため、ただ単に後々まで我々の意識に深く残っていないというだけのことなのだ。学校という場所で何年間も繰り返して身につけたことは、私たちの心身に同化してしまっており、あたかも生まれ落ちたときから身につけていたような錯覚をしてしまう。だから、その貴重さが分からないのだ。

一方で、非日常的な体験の数々は、それが非日常的だからこそ、慣れ親しんできた範疇外の遺物だからこそ、我々の印象に深く刻まれて、長く鮮烈さを保ち続ける。そして、その一瞬が人生の中で、他の長い年月よりもはるかに大きなウェイトを占めるように感じられるのだ。だが、これも所詮は錯覚である。

学校で過ごした当たり前の日々には、特別な光はないかも知れないが、それは間違いなくキミ達の身体の一部になってしまっている。3年間を学校で過ごすとはそういう事なのだ。そして、キミ達が自覚しようがしまいが、それは立派にキミ達の骨や血や肉となっているのだ。そのことが認識できなければ、キミ達がこの3年間に感謝する日は一生やって来ないだろう。あれこれあった3年間で今の自分を創ったことは紛れもない事実なのだから…。

アインシュタイン博士が言わんとしたのは、単に「学校教育などたかが知れている」ということではない。学校での基本的な教育を抜きにして、我々が真の教育に巡り合うなどということは、砂漠に落ちた一本の針を見つけ出すほどの確率しかないだろう。そうではなく、我々にとっては学校を出た後でも学ぶ場はあり続け、その中に真の教育も受け、時には自分自身で自らを教育するような機会がいくらかもあるし、また、そうでなくてはならない。

学校を卒業して教育が終わるのでなく、自分の存在理由を発見する旅は一生続くのである。学校で受けた教育はその寄る辺に過ぎないが、侮れないだけの値打ちはある。「聞く耳」や「判断する頭」、そして「我慢する心」を身につけていれば十分である。それが我々の人生行路の大きな寄る辺になるのだ。やがては、自分の身につけた薄っぺらな知識が忘れ去られ、或いは自分の肉や骨が失われるときが来るだろう。その時に、それでも魂として残っているものがあるならば、それこそが自分の受けた真の教育だったのだ。

さあ諸君。真実に辿り着く縁を手にするために、残り僅かな学校教育を大事にしよう。キミ達が卒業証書を手にする日までは、偉大なるルーティーンを続けることにしよう！